

山里川海の一体保全に寄与することを目的に、一般社団法人グリーンバナー推進協会は大自然のなかや一次産業の現場で調査や保全活動を続けております。

その現場から、特に気になるトレンドや現象を連続レポートでリアルにお伝えしたいと思います。

第4回目はサステナブルな海の保全についてお伝えさせていただきます。

間伐材を海藻増殖に活用する画期的な取り組み

当協会がモデル地域として継続的に連携している和歌山市の加太では漁協と観光協会の青年部が協働し、地域の森林から出た間伐材を活用して海藻を増殖する取り組みに挑戦し成果を上げています。これは下記の通り、間伐材を人工的に腐食させてフルボ酸鉄を生成し、海藻（アラム母藻）と一緒に石に括り付けて海底に沈めるもので我が国初の取り組みです。



間伐材をチップ化（人工腐植生産材）



人工腐植生産容器に材料を投入



人工腐植とミネラルを袋詰



捨て石へアラム母藻と生産材を括り付け



クレーンに資材を設置



クレーンで海底に設置

江戸時代以前から底引き網など海底を傷つける漁法や撒き餌を使わずに、一本釣りにこだわってきた加太湾の漁業は、海底に生息する藻が豊かである事が命ともいえます。海藻がプランクトンや甲殻類を育み、それを餌にする真鯛をはじめとする魚類が好条件で繁殖するという自然のサイクルが見事に調和して、関西で一番ともいわれる美味しい魚を供給する漁場になっています。

この資産を次世代に残すためには、海にミネラルを供給する地域の森林を間伐して健全に維持する必要があり、また間伐材を最も効果的に活用する手法を開発する必要があったというのが、加太の漁協と観光協会の考えです。美しく豊かな海は加太の観光資源の根幹でもあり、自然と漁業と観光が一体となることで初めて漁師町の暮らしが持続的に保たれると観光協会長は言います。

この取り組みには一部国の補助金も出ていますが、それぞれの分野の地域の若手の情熱がなければ成立していませんでした。漁師と林業者と観光業者が一体となるためには何年も話し合いを続け、小さな実績を積み重ね、専門技術者の知見を取り入れる気の長い我慢が必要でした。森と海の一体保全で地域の暮らしを守る素晴らしい事例といえます。



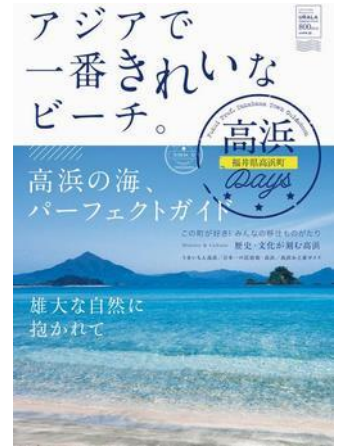
竿を使わず手で一本ずつ鯛を釣ります

アジアで初の国際環境認証「BLUE FLAG」を取得した若狭和田ビーチ

もうひとつ、福井県高浜町の取り組みをご紹介します。

高浜町の若狭和田ビーチは、アジアで初の国際環境認証「BLUE FLAG」を取得したことで知られています。若狭和田ビーチは、高い透明度と遠浅の海、広く広い砂浜が特徴で、関西圏のマリンリゾート地としてもとより有名でしたが、「BLUE FLAG」を取得したことで日本人だけではなく外国人観光客に対しても海の美しさと安全性をアピールが出来るようになりました。

若狭和田ビーチを紹介するガイドブック「高浜Days」（右写真）を編集した宮田耕輔さんに「BLUE FLAG」を取得できた秘訣をお聞きしました。



【「高浜Days」編集長・宮田耕輔さんの談話】

● 「BLUE FLAG」を取得できた理由について

「これまでアジアで1件もないことで分かる通り、取得が極めて困難といわれていました。これを取得できた理由は、町民も町役場も「私たちには海しかない！」という強い覚悟があったからだと思います。それと、2007年に全国的にも先進的な若狭和田ライフセービングクラブが結成され、水難救助員やライフセーバーがビーチに常駐していたことが、取得の上で非常に有利だった点です。海を美しく維持することは当然ですが、海の安全・安心は取得への高いハードルなのです。

準備から取得までの期間は、町役場職員の強いリーダーシップもあって、1年半という非常に短い時間でした」

● 取得のメリットについて

「当然PR効果は期待できますが、それよりも大切なのは町民やビーチに関わる人たちが若狭和田ビーチに誇りを持てたことが一番のメリットだと思います。「BLUE FLAG」を取得したからには、これを維持しなければならないわけで、活動を持続させる動機としても価値があります。また、高浜町では小学校の授業で生徒に観光案内をしてもらいます。人に高浜の魅力を伝えることで、町の海に対する愛情とプライドが生まれるのです。持続して、そして次世代につないでいきたいですね」

高浜町では都会からの移住についても積極的に取り組んでおり、「アジアで一番美しい海」を武器にして、ライフセービングや飲食業など様々な雇用を創出する努力を続けています。美しい自然を未来に残し、町の経済振興と雇用創出を実現する素晴らしい取り組みです。



若狭和田ライフセービングクラブでは、海やプールでトレーニングしてきたレスキュー技術を競う大会、心肺蘇生の方法や溺れないための技術などを学ぶ講習会などを実施しています。美しい海を維持する活動と安全な海を実現する活動は一体の取り組みなのです。